

## 1章 インターネット調査

---



# 1. 調査概要

## 1. 1 調査目的

保護者による子供のスポーツ活動に対する関与の実態や意識、また子供のスポーツ活動に対する考え方や意見などを明らかにする。

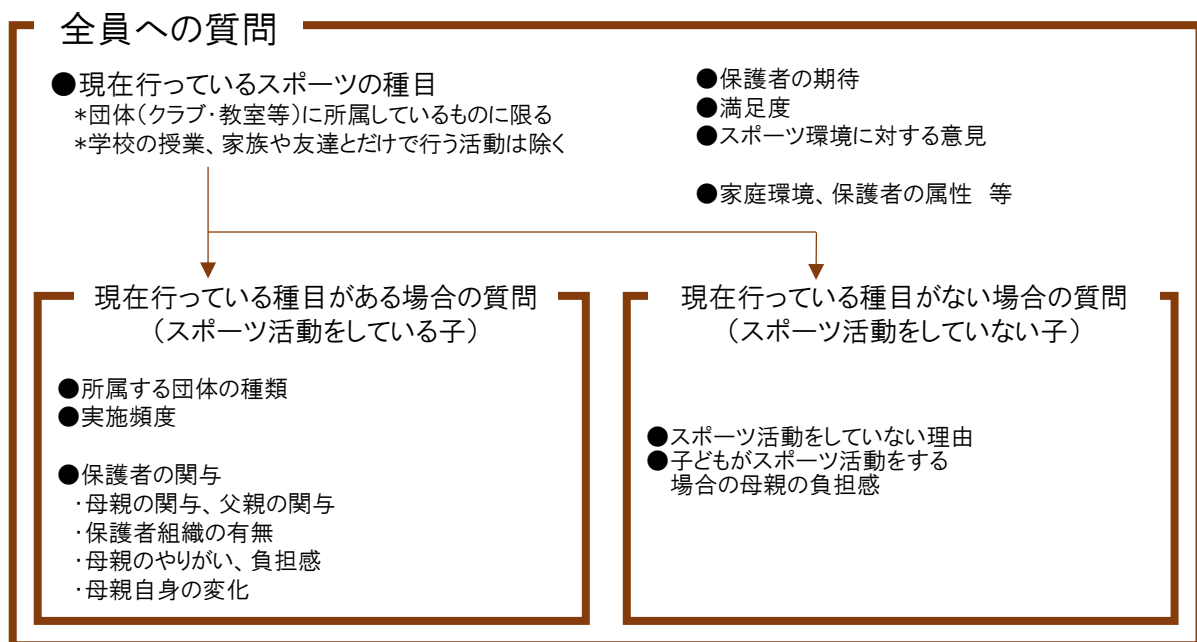
## 1. 2 調査方法・調査対象

調査会社の登録モニターを用いたインターネット調査。小学校1年生～6年生の第1子をもつ母親を対象とし、複数の子供がいる場合は第1子について回答してもらった。回収にあたっては、対象となる子供の学年・性別が均等になるよう割付をしている。有効回答数 2,368 人。

## 1. 3 調査時期

2017年2月

## 1. 4 主な調査項目



※具体的な調査項目は、笹川スポーツ財団のウェブサイト上に掲載している基礎集計表で確認することができる。

## 1. 5 調査結果を読む上での注意点

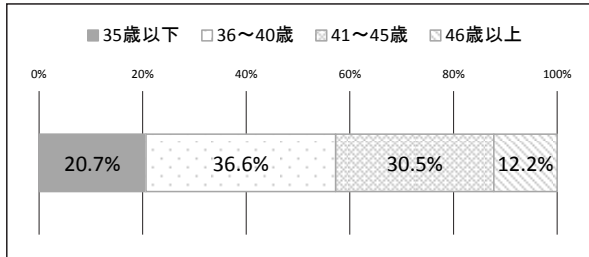
- ・図表中の「人口規模別」の人口は、居住地(市区町村)の回答をもとにして特定・算出している(総務省「平成 28 年 1 月 1 日住民基本台帳人口・世帯数、平成 27 年(1 月 1 日から同年 12 月 31 日まで)人口動態(市区町村別)(総計)」を使用)。
- ・図表中の「保護者の期待別」「地域クラブ所属別」については、それぞれ「保護者の期待(図表 1-6 参照)」「所属する団体の種類(図表 1-8 参照、「地域のスポーツクラブ」所属の有無でわけている)」の回答結果をもとに分析している。
- ・表中の数値で 5 ポイント以上の差がある場合には<>、10 ポイント以上の差がある場合には<< >>の記号をつけている。
- ・本調査は登録モニターを用いたインターネット調査であるため、回答者に偏りがある点には留意が必要である。当財団が実施する別調査(訪問留置法)と比較すると、人口規模の大きい地域の居住者が多く含まれているが、ウェイト等を用いた補正は行っていない。

## 1.6 基本属性

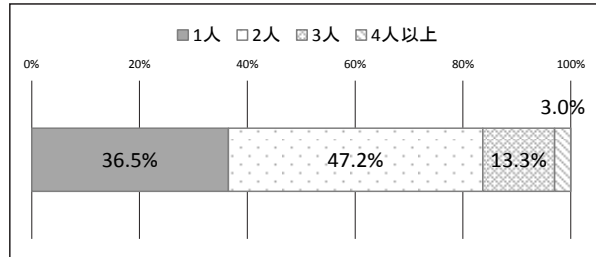
### 子供の性別・学年

男子						女子						合計
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
199	198	199	198	195	197	196	196	198	198	197	197	2,368

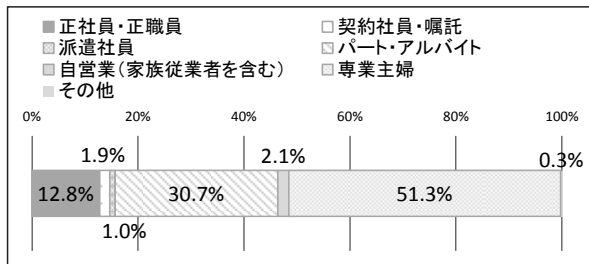
### 母親の年齢



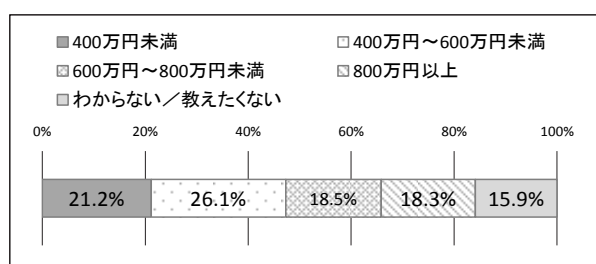
### 子供の人数



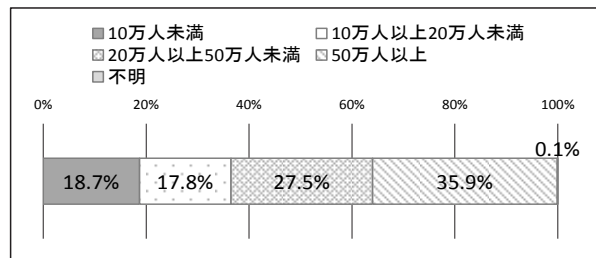
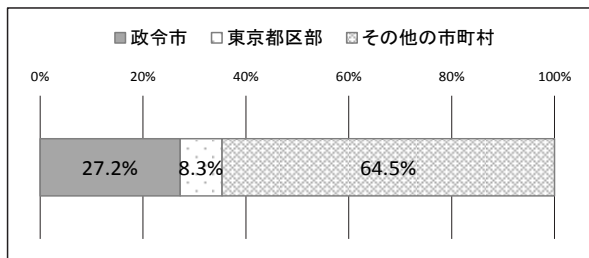
### 母親の就業形態



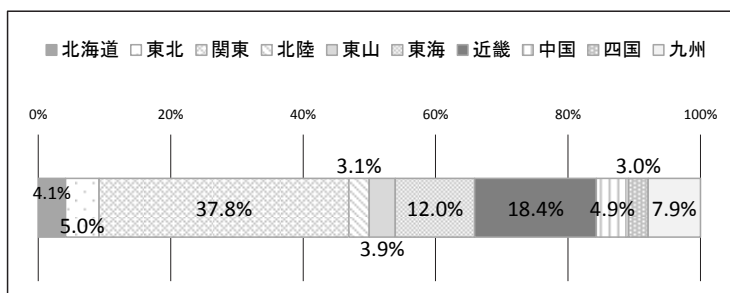
### 世帯年収



### 居住地(市区町村)の人口規模



### 居住地区



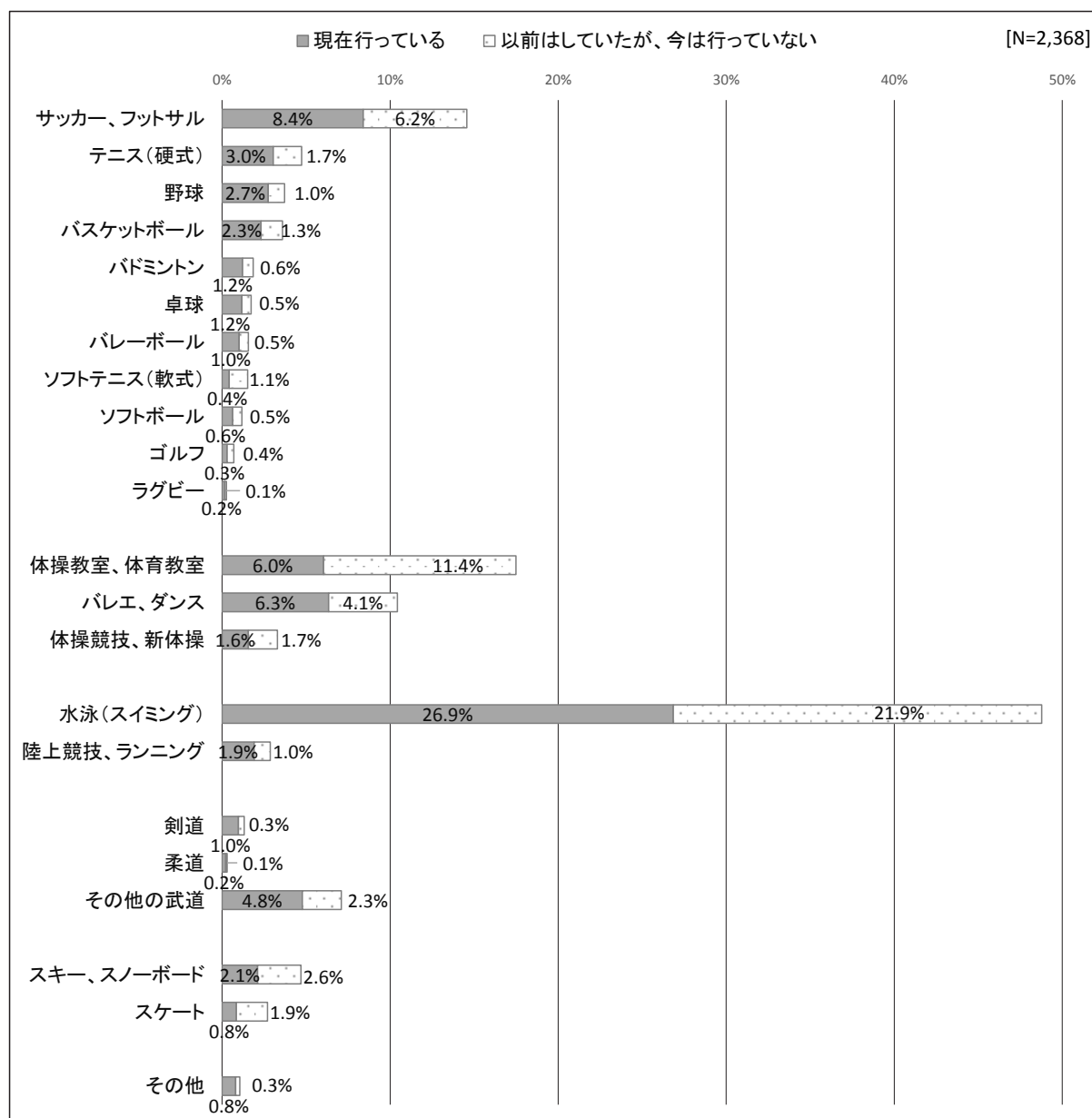
## 2. 調査結果

### 2. 1 子供のスポーツ活動

#### (1) 子供が行っている種目

「お子様は小学生になってから、団体(クラブ・教室等)に所属して、以下のようなスポーツ活動を定期的に行ったことがありますか」と尋ねたところ、「水泳(スイミング)」が最も多く、「現在行っている」(26.9%)と「以前はしていたが、今は行っていない」(21.9%)を合わせると、5割近くが経験していた。他の種目では、「サッカー、フットサル」「体操教室、体育教室」「バレエ、ダンス」が多かった。

図表 1-1 子供が行っている種目

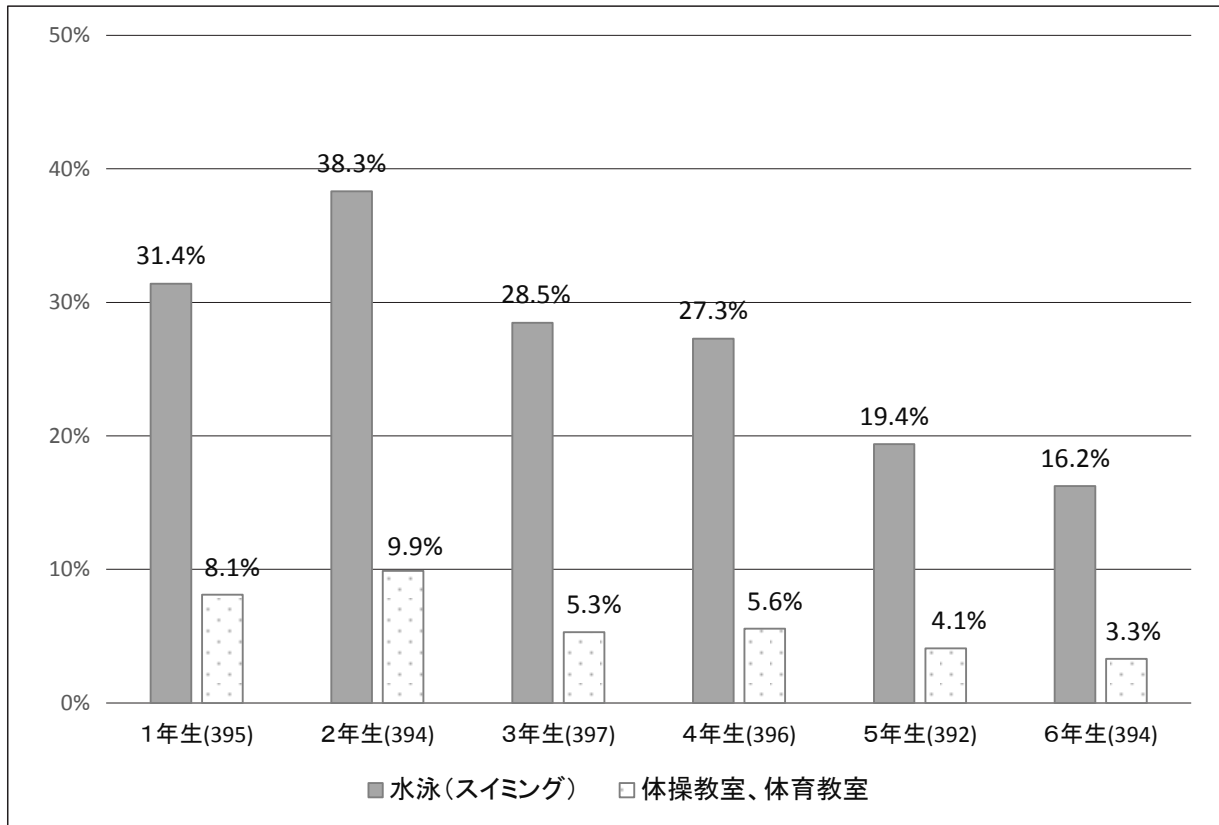


注 1) 質問紙上では、「体操教室、体育教室」には「跳び箱、マット、鉄棒、走り方などを指導する教室」という注釈をつけている。

注 2) 質問紙上では、「その他の武道」には、「空手、相撲、少林寺拳法、合気道など」という注釈をつけている。

このうち、「現在行っている」種目に関して学年別に分析すると、「水泳（スイミング）」「体操教室、体育教室」で学年による差が大きく、いずれも低学年で「現在行っている」比率が高い（図表 1-2）。特に「水泳（スイミング）」は、1・2年生では3割以上が「現在行っている」のに対して、5・6年生では2割以下である。

図表 1-2 子供が行っている種目(学年別)

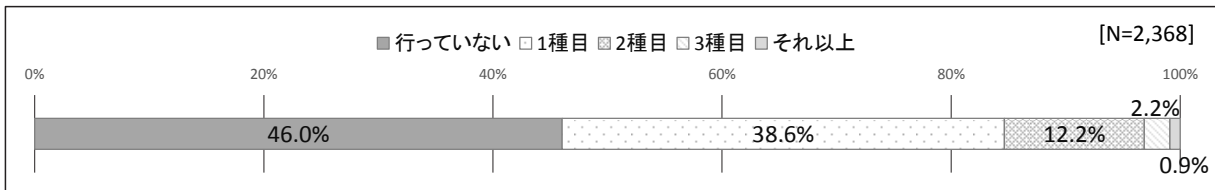


注 1)「現在行っている」の%。

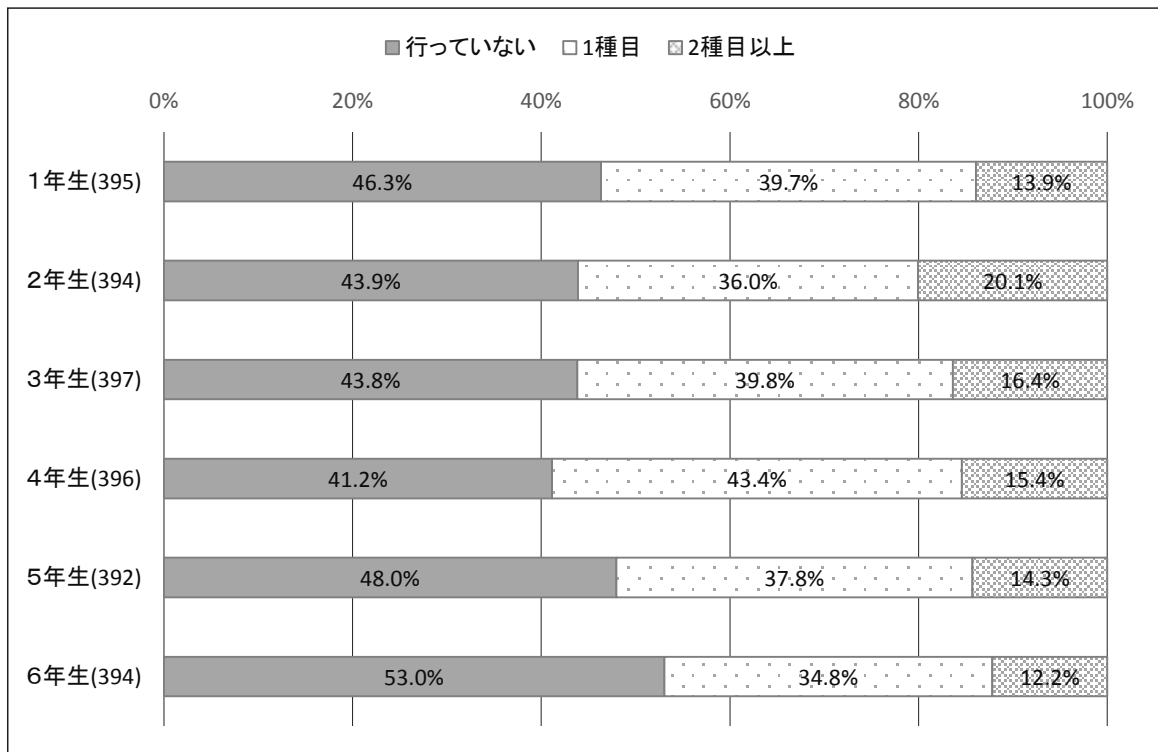
(2) 現在行っている種目数

図表 1-1 の「子供が行っている種目」の回答をもとに、現在行っている種目が1つでもあるか否か、また、ある場合はその種目数を算出した(図表 1-3)。結果をみると、現在スポーツ活動を何も「行っていない」が46.0%、「1種目」が38.6%、「2種目」が12.2%であった。学年別にみると(図表 1-4)、「1種目」「2種目以上」は2~4年生で多く、「行っていない」は5・6年生で多い。性別では女子で「行っていない」(53.5%)が過半数を占めた(図表 1-5)。また、世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど「行っていない」の比率が高くなり、「400万円未満」では58.7%であった。

図表 1-3 現在行っている種目数



図表 1-4 現在行っている種目数(学年別)



図表 1-5 現在行っている種目数(第1子性別、世帯年収別)

	性別		世帯年収			
	男子 (1,186)	女子 (1,182)	400万円未満 (501)	400万円～ 600万円未満 (619)	600万円～ 800万円未満 (439)	800万円以上 (433)
行っていない	38.6%	53.5%	58.7%	46.5%	42.1%	32.8%
1種目	42.6%	34.6%	30.7%	39.3%	41.9%	43.6%
2種目以上	18.8%	11.9%	10.6%	14.2%	15.9%	23.6%

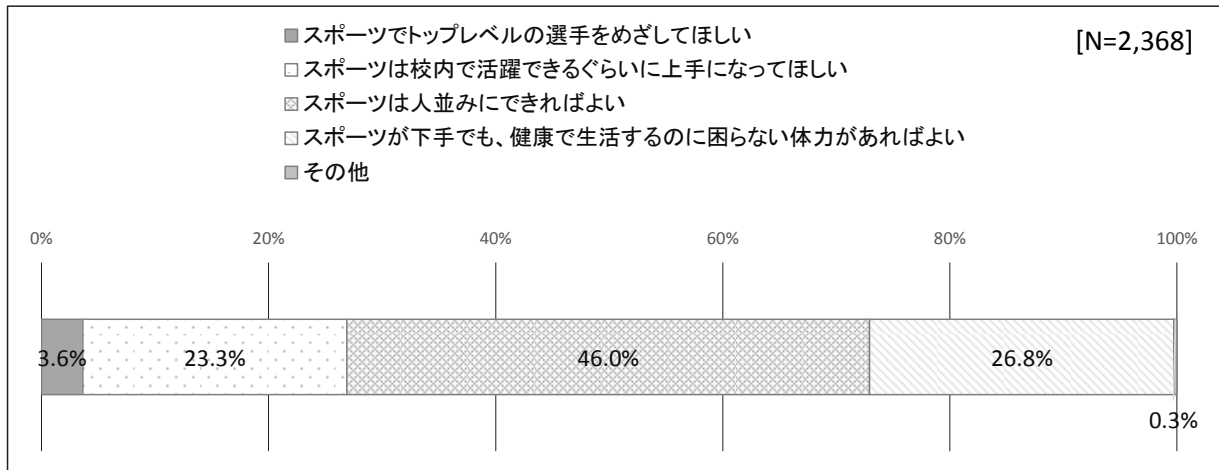


### (3) 保護者の期待

「お子様にはどれくらいスポーツができてほしいと思いますか」と4択で尋ねたところ、「スポーツは人並みにできればよい」が最も多く、46.0%であった。続いて「スポーツが下手でも、健康で生活するのに困らない体力があればよい」(26.8%)、「スポーツは校内で活躍できるぐらいに上手になってほしい」(23.3%)の順に多く、「スポーツでトップレベルの選手をめざしてほしい」は3.6%であった。

性別では女子よりも男子が、また世帯年収の高い家庭のほうが、期待の度合いが高くなる傾向がみられた(図表 1-7)。

図表 1-6 保護者の期待



図表 1-7 保護者の期待(第1子性別、世帯年収別)

	性別		世帯年収			
	男子 (1,186)	女子 (1,182)	400万円未満 (501)	400万円～ 600万円未満 (619)	600万円～ 800万円未満 (439)	800万円以上 (433)
スポーツでトップレベルの選手をめざしてほしい	3.7%	3.6%	4.2%	3.1%	3.9%	4.4%
スポーツは校内で活躍できるぐらいに上手になってほしい	25.7%	20.8%	17.8%	23.4%	23.9%	28.4%
スポーツは人並みにできればよい	46.1%	45.9%	44.9%	47.5%	47.4%	46.0%
スポーツが下手でも、健康で生活するのに困らない体力があればよい	24.1%	29.5%	32.7%	25.7%	24.4%	21.2%
その他	0.3%	0.2%	0.4%	0.3%	0.5%	0.0%

#### (4) 所属する団体の種類

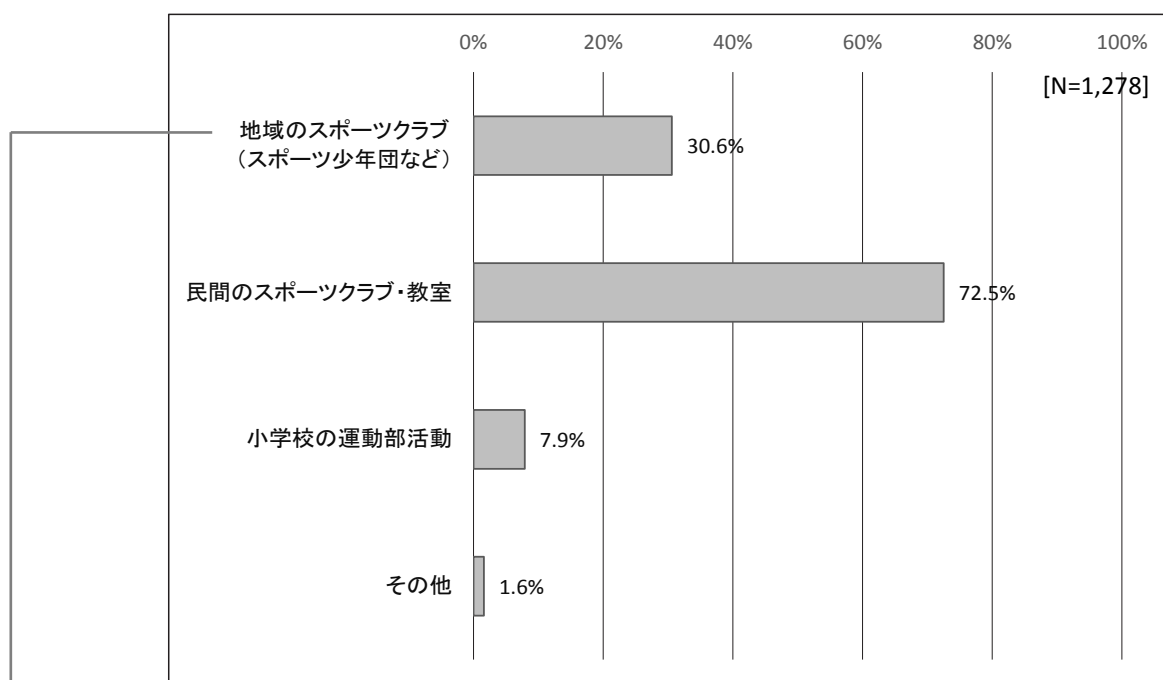
子供がスポーツ活動を行っている場合のみ、「お子様は、どのような団体(クラブ・教室等)に所属してスポーツ活動を行っていますか」と尋ねた(図表 1-8)。1人で複数の種目を実施している場合には各種目に対して主な所属団体を尋ねているため、数値の合計が100%をこえている。

結果をみると、「民間のスポーツクラブ・教室」が最も多く72.5%、続いて「地域のスポーツクラブ(スポーツ少年団など)」(30.6%)、「小学校の運動部活動」(7.9%)の順であった。

さらに、「地域のスポーツクラブ」の所属率を、第1子性別、学年別、居住地の人口規模別、保護者の期待別に分析した(図表 1-9)。性別では女子よりも男子のほうが高い。これは地域クラブで活動する種目に、野球やサッカーといった男子の実施率が高い種目が多い点が影響しているだろう。また、学年別では、高学年で地域クラブの所属率が高かった。居住地の人口規模別では、「10万人未満」で特に地域クラブ所属率が高く、39.7%であった。都市部のほうが民間のスポーツクラブ・教室の数が多く、小学生の家庭にとって選択肢が多い環境であると考えられる。保護者の期待別では、「トップレベルの選手をめざす」で地域クラブの所属率が47.1%と高かった。地域クラブのなかには、大きな大会での勝利やトップレベルの競技力をめざして熱心に活動する親子も、一定程度いることが推察される。

以上、子供のスポーツ活動に関する調査結果を確認した。保護者の関与・負担感を検討する前提として、子供のスポーツ活動には、子の属性、家庭環境、地域環境、保護者の期待などが影響している。特に地域クラブでは男子・高学年が多く、また保護者の子供に対する期待も高いことがわかる。

図表 1-8 所属する団体の種類(スポーツ活動をしている子)



注)同一人物が異なる種目で同じ団体の種類を選択していた場合、団体の種類は1として計上。たとえば2種目を「地域のスポーツクラブ」で実施している場合は「地域のスポーツクラブ」1、1種目を地域クラブ・1種目を民間クラブで実施している場合は、「地域のスポーツクラブ」1・「民間のスポーツクラブ・教室」1として計上している。そのため合計が100%をこえている。

図表 1-9 地域クラブの所属率(スポーツ活動をしている子・第1子性別、学年別、人口規模別、保護者の期待別)

性別		学年					
男子 (728)	女子 (550)	1年生 (212)	2年生 (221)	3年生 (223)	4年生 (233)	5年生 (204)	6年生 (185)
35.6%	24.0%	20.3%	28.5%	32.3%	31.8%	35.3%	36.2%

居住地の人口規模				保護者の期待			
10万人未満 (224)	10万人以上 20万人未満 (224)	20万人以上 50万人未満 (368)	50万人以上 (460)	トップレベルの選手をめざす(68)	校内で活躍できる(421)	人並みにできる(580)	生活に困らなければ下手でもよい(205)
39.7%	29.5%	32.3%	25.2%	47.1%	37.8%	24.8%	26.3%

地域クラブが多い種目の例	民間クラブが多い種目の例
野球(81.5%)	水泳(90.7%) 硬式テニス(83.3%)
バスケットボール(56.4%)	体操教室・体育教室(81.1%)
サッカー(47.2%)	バレエ・ダンス(78.7%)
	スキー・スノーボード(52.0%)

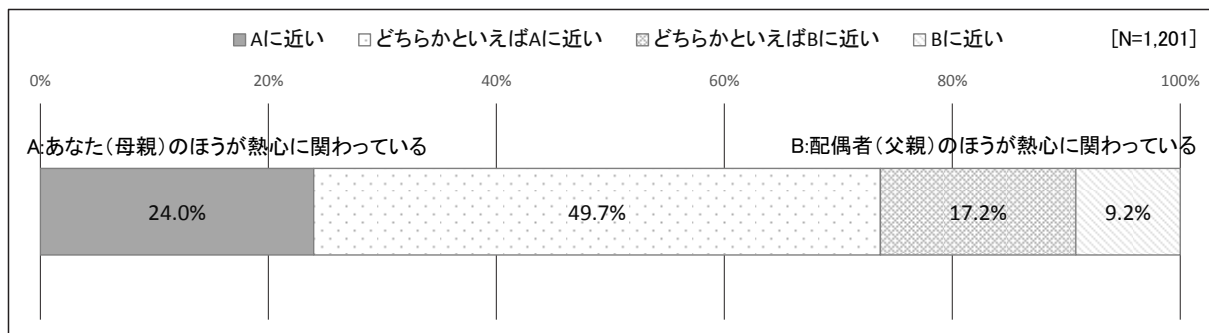
注)( )内の数値は、各種目の実施者が、図1-8の4つの選択肢のなかから「地域のスポーツクラブ」/「民間のスポーツクラブ」を選択した割合を示す。

## 2. 2 スポーツ活動をしている子供の家庭

### (1) 家庭内の様子

「お子様のスポーツ活動における、ご家庭での様子についてあてはまるものを1つ選んでください」という質問をしたところ、家庭内では「母親のほうが熱心に関わっている(Aに近い、どちらかといえばAに近い)」が合わせて73.7%、「父親のほうが熱心に関わっている(Bに近い、どちらかといえばBに近い)」が26.4%であった。子供のスポーツ活動に対しては、母親が中心に関与している家庭が多いことがわかる。

図表 1-10 家庭内の様子(スポーツ活動をしている子)



注1) 配偶者がいる人のみ回答。

注2) 実際の設問では行っている種目ごとに尋ねている。複数の種目を行っている場合は、1つめに選んだ種目について集計をしている(2種目以降で集計しても傾向が変わらないことを確認している)。

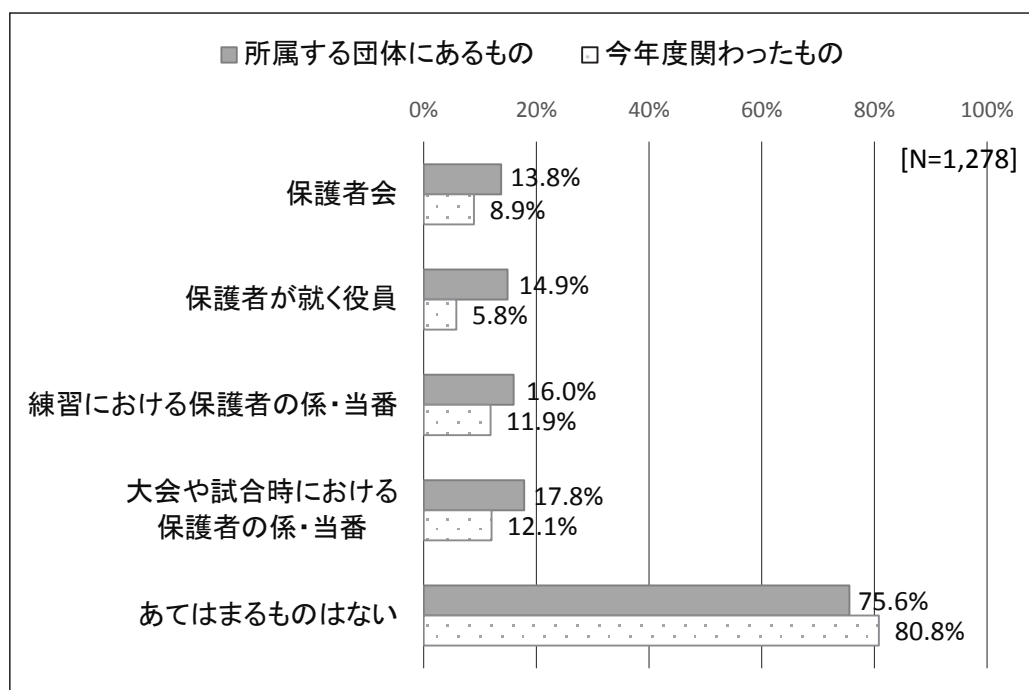
## (2) 所属する団体の保護者組織

子供が所属する団体(クラブ・教室等)にある保護者組織と、そのうち2016年度(調査の回答年度)に母親自身が関わったものを、それぞれ複数回答で選んでもらった。回答者自身が関わったもので多いのは「練習における保護者の係・当番」「大会や試合時における保護者の係・当番」で、約1割の保護者が実際に係や当番を務めていたことがわかる。「保護者が就く役員」は14.9%が「所属する団体にある」としているが、実際に自身が関わったのは5.8%であった。自身が関わったもので「あてはまるものはない」とした人は80.8%であり、逆に考えると約2割の母親は、なんらかの形で保護者会や役員、当番に関わっていたことになる。

同じデータを、地域のスポーツクラブで活動する場合のみで集計したのが、図表1-12である。4項目いずれも約4割が「所属する団体にある」と回答し、係や当番は約3割、役員も16.0%が「今年度関わった」としている。保護者の組織も母親たちの関与も、地域クラブではより多いことがわかる。

また子供の学年別にみると、高学年になるほど役員や係・当番を務めている比率が高くなる(図表1-13)。クラブ内で高学年の保護者により重要な役割が求められるケースが多いと考えられる。

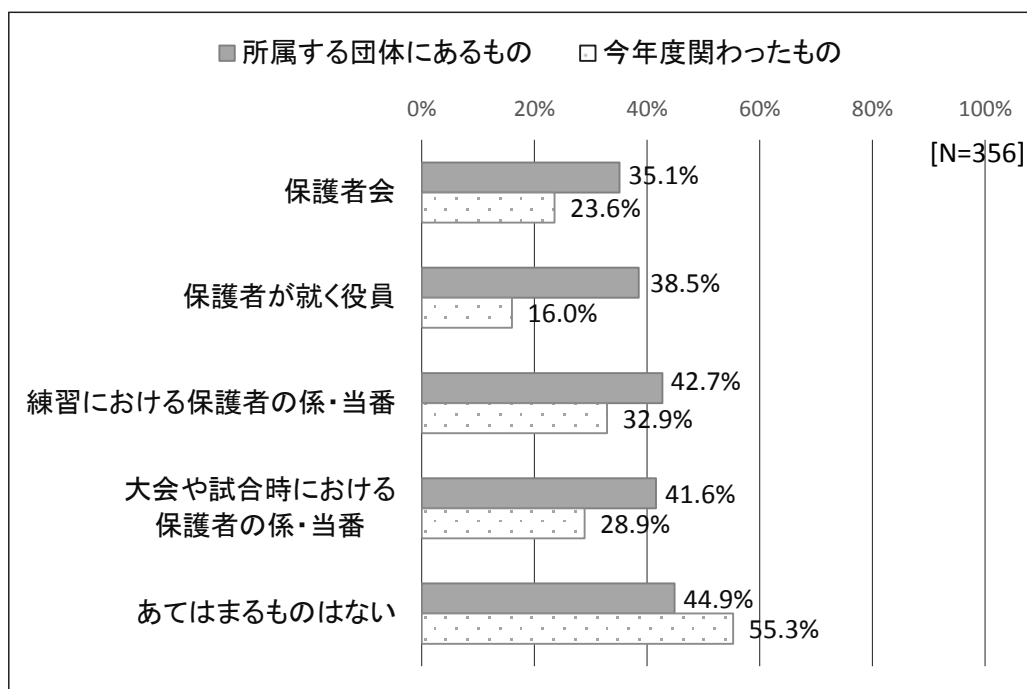
図表 1-11 所属する団体の保護者組織(スポーツ活動をしている子)



注 1) 複数回答。

注 2) 実際の設問では行っている種目ごとに尋ねている。複数の種目を行っている場合は、1つめに選んだ種目について集計をしている(2種目以降で集計しても傾向が変わらないことを確認している)。

図表 1-12 所属する団体の保護者組織(スポーツ活動をしている子・地域クラブのみ)



注1) 複数回答。

注2) 実際の設問では行っている種目ごとに尋ねている。複数の種目を行っている場合は、1つめに選んだ種目が地域クラブである場合について集計をしている(2種目め以降で集計しても傾向が変わらないことを確認している)。

図表 1-13 所属する団体の保護者組織(スポーツ活動をしている子・地域クラブのみ)

今年度ご自身が関わったもの	第1子学年					
	1年生 (39)	2年生 (54)	3年生 (69)	4年生 (68)	5年生 (64)	6年生 (62)
保護者会	12.8%	0.0%	14.5%	26.5%	37.5%	43.5%
保護者が就く役員	0.0%	1.9%	10.1%	13.2%	32.8%	30.6%
練習における保護者の係・当番	10.3%	18.5%	31.9%	30.9%	40.6%	54.8%
大会や試合時における保護者の係・当番	12.8%	9.3%	27.5%	26.5%	46.9%	41.9%
あてはまるものはない	79.5%	75.9%	60.9%	52.9%	39.1%	35.5%

注1) 複数回答。

注2) 実際の設問では行っている種目ごとに尋ねている。複数の種目を行っている場合は、1つめに選んだ種目が地域クラブである場合について集計をしている(2種目め以降で集計しても傾向が変わらないことを確認している)。

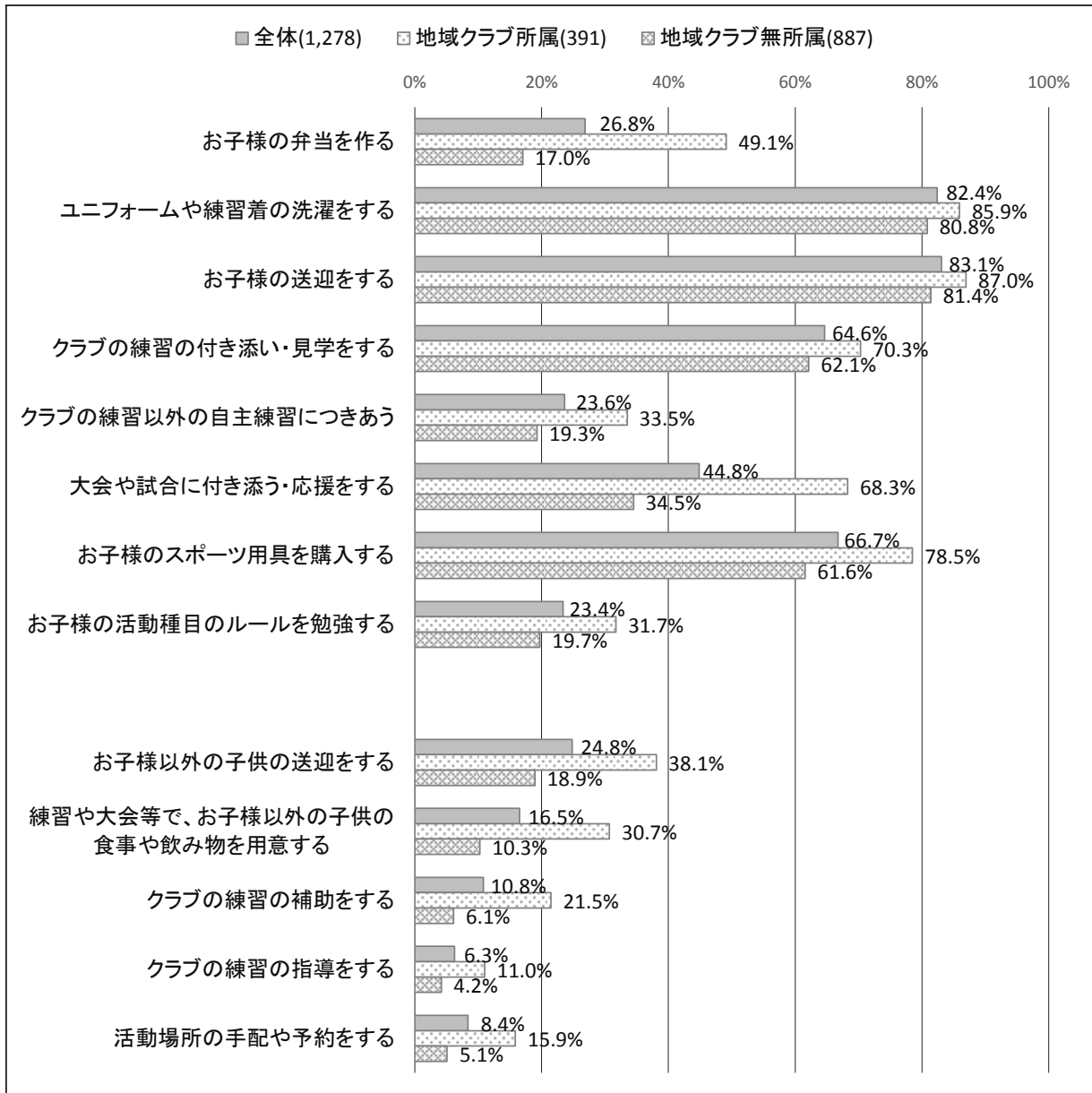
### (3) 母親の関与・父親の関与

子供のスポーツ活動に対する、母親・父親の関与の実態を尋ねた。図表 1-14 が母親の関与、図表 1-15 が父親の関与である。両図をみると、まず全体的に母親のほうが関与の度合いが高いことがわかる。「お子様の弁当を作る」(母親 26.8%>父親 8.3%)や「ユニフォームや練習着の洗濯をする」(母親 82.4%>父親 17.6%)は、父親の数値を母親が大きく上回っている。これらは通常の家事の一部とも捉えられ、家事を主に担っている母親たちが行うことが多いものと推察される。ほかにも、「お子様の送迎をする」(母親 83.1%>父親 47.7%)、「クラブの練習の付き添い・見学をする」(母親 64.6%>父親 35.6%)、「お子様のスポーツ用具を購入する」(母親 66.7%>父親 32.6%)など、日常的な自分の子供に対する関与は、母親が主に担当していることがわかる。

一方で、「クラブの練習以外の自主練習につきあう」(母親 23.6%、父親 25.4%)、「クラブの練習の補助をする」(母親 10.8%、父親 9.9%)、「クラブの練習の指導をする」(母親 6.3%、父親 7.2%)などは、父親と母親の数値の差が小さい。

また地域クラブの所属有無別にみると、地域クラブに所属しているほうが保護者の関わりは多い。「お子様以外の子供の送迎」「お子様以外の子供の食事や飲み物の用意」といった、自分の子供以外に対する関与には母親の 3~4 割、「クラブの練習の補助」「クラブの練習の指導」「活動場所の手配や予約」といった、運営の補助にも母親・父親の 1~2 割が関わっている。

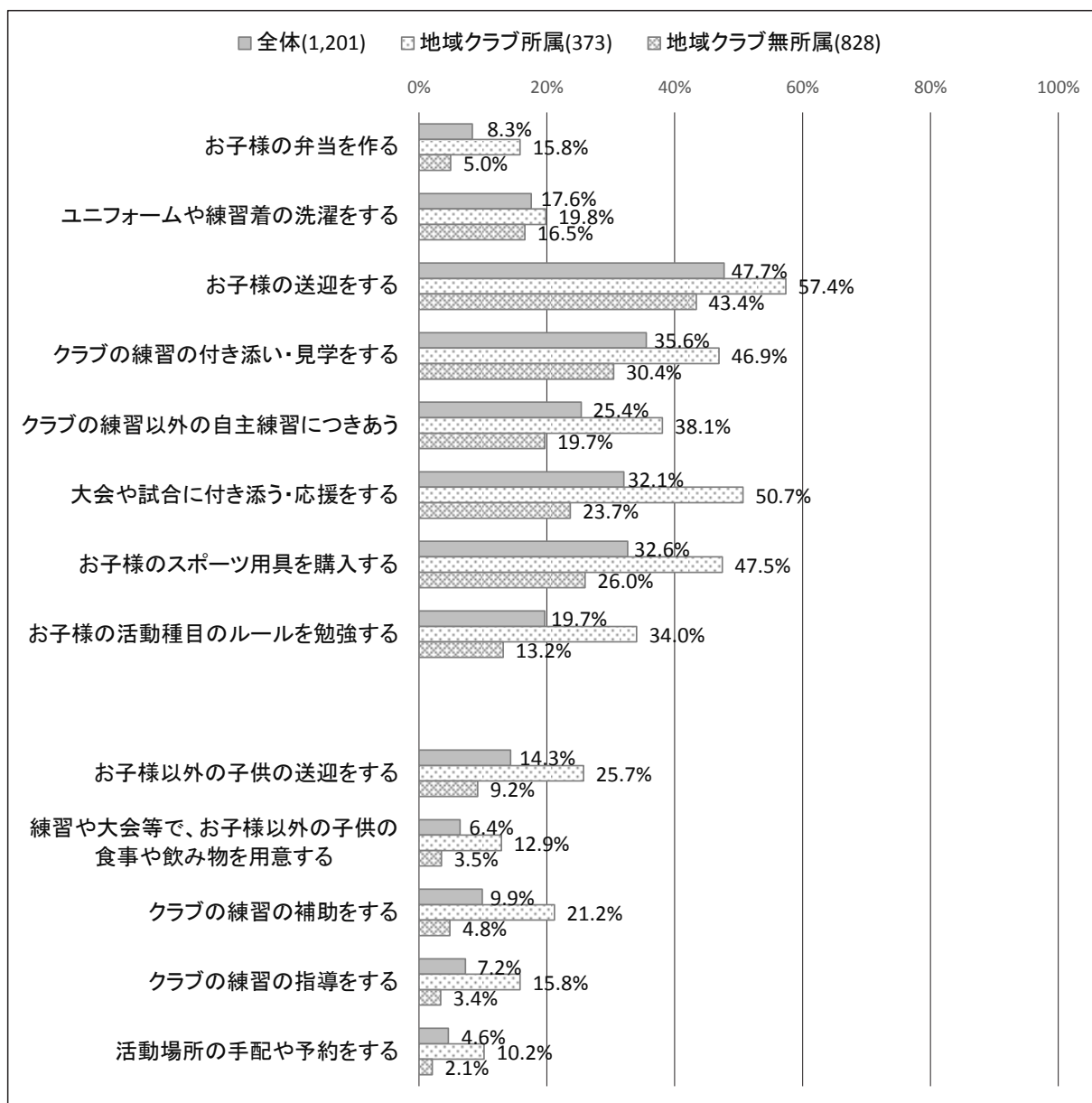
図表 1-14 母親の関与(スポーツ活動をしている子・全体、地域クラブ所属別)



注)「よくする」+「時々する」の%。



図表 1-15 父親の関与(スポーツ活動をしている子・全体、地域クラブ所属別)



注 1)「よくする」+「時々する」の%。

注 2)配偶者がいる人のみ回答。

保護者の関与について、子供の学年や性別に分析した。図表 1-16 は、母親の関与について学年別に集計した結果である。自分の子供に対する関与をみると、高学年では「お子様の弁当を作る」が多くなり、逆に低学年では「お子様の送迎をする」「クラブの練習の付き添い・見学をする」などが多い。また、自分の子供以外に対する関与をみると、「お子様以外の子供の送迎」「お子様以外の子供の食事や飲み物を用意」「活動場所の手配や予約」は、特に 6 年生で数値が高くなっている。

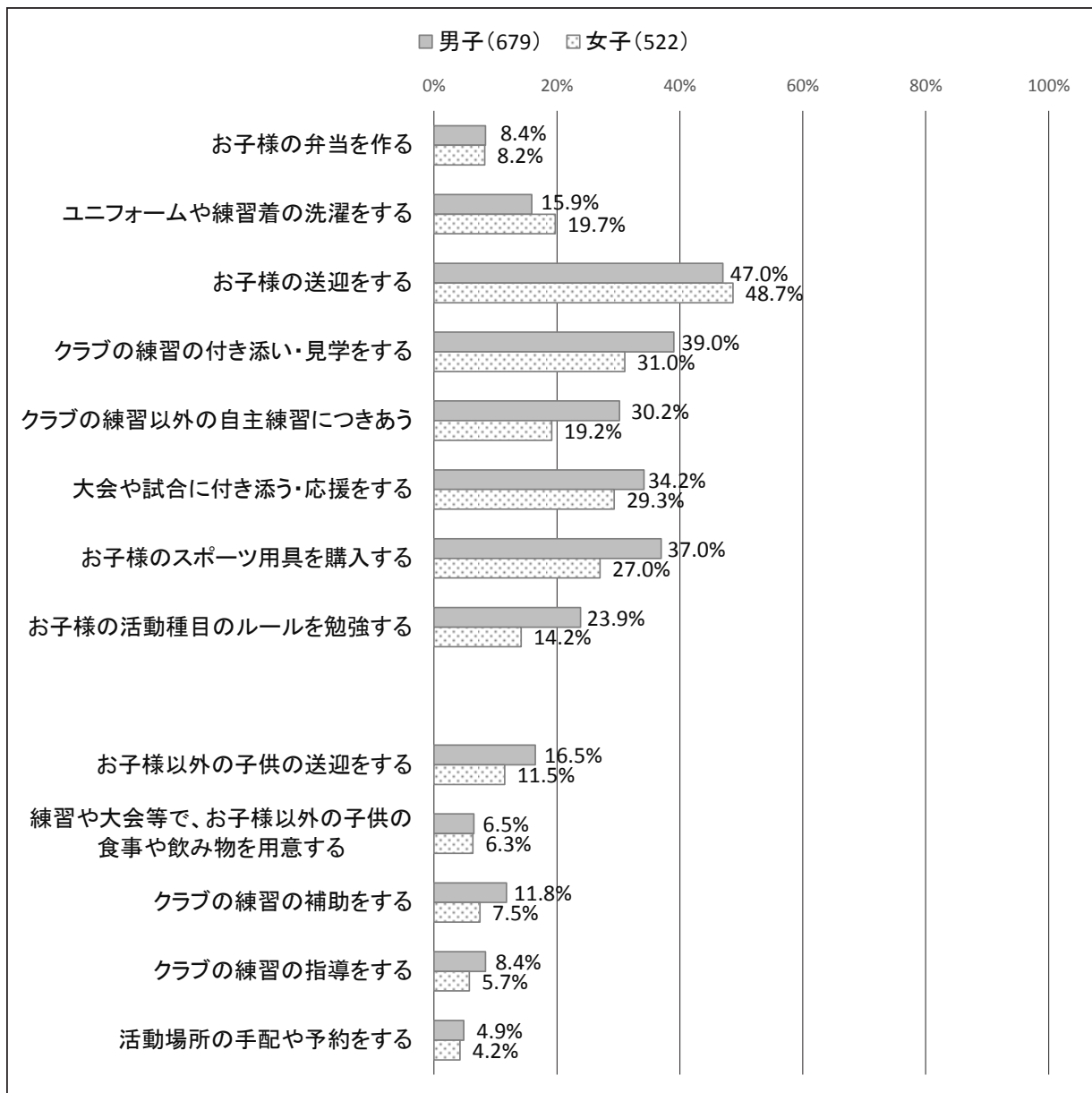
性別では、男子の場合は女子に比べて父親の関与が多い(図表 1-17)。特に、「クラブの練習の付き添い・見学」「クラブの練習以外の自主練習につきあう」「大会や試合に付き添う・応援」「お子様の活動種目のルールを勉強」は、母親の関与(図表は割愛)では男女差がみられなかった項目であるが、父親の関与ではすべて男子のほうが女子よりも 5 ポイント以上高くなっている。

図表 1-16 母親の関与(スポーツをしている子・学年別)

	1 年生 (395)	2 年生 (394)	3 年生 (397)	4 年生 (396)	5 年生 (392)	6 年生 (394)
【自分の子供に対して】						
お子様の弁当を作る	13.7%	18.1%	21.5%	< 30.9%	< 37.7%	41.6%
ユニフォームや練習着の洗濯をする	84.0%	81.4%	80.3%	83.3%	80.9%	84.9%
お子様の送迎をする	91.5%	86.9%	86.5%	» 75.1%	< 80.9%	77.3%
クラブの練習の付き添い・見学をする	81.6%	» 71.5%	66.8%	» 54.5%	59.3%	> 53.0%
クラブの練習以外の自主練習につきあう	22.2%	24.0%	22.9%	23.2%	27.0%	22.7%
大会や試合に付き添う・応援をする	30.2%	< 35.7%	< 43.5%	47.2%	« 60.3%	> 54.1%
お子様のスポーツ用具を購入する	66.0%	> 59.7%	< 65.9%	66.5%	69.1%	< 74.6%
お子様の活動種目のルールを勉強する	18.9%	< 26.2%	27.4%	> 21.5%	24.0%	22.2%
【自分の子供以外に対して】						
お子様以外の子供の送迎をする	17.9%	22.2%	< 29.1%	> 22.7%	26.5%	31.4%
練習や大会等で、お子様以外の子供の食事や飲み物を用意する	10.8%	12.7%	< 17.9%	15.0%	18.6%	< 25.4%
クラブの練習の補助をする	7.5%	9.0%	12.1%	12.4%	11.3%	12.4%
クラブの練習の指導をする	6.1%	8.1%	5.4%	5.2%	5.9%	7.0%
活動場所の手配や予約をする	5.2%	9.0%	8.5%	7.3%	6.9%	< 14.1%

注)「よくする」+「時々する」の%。

図表 1-17 父親の関与(スポーツをしている子・性別)



注 1)「よくする」+「時々する」の%。

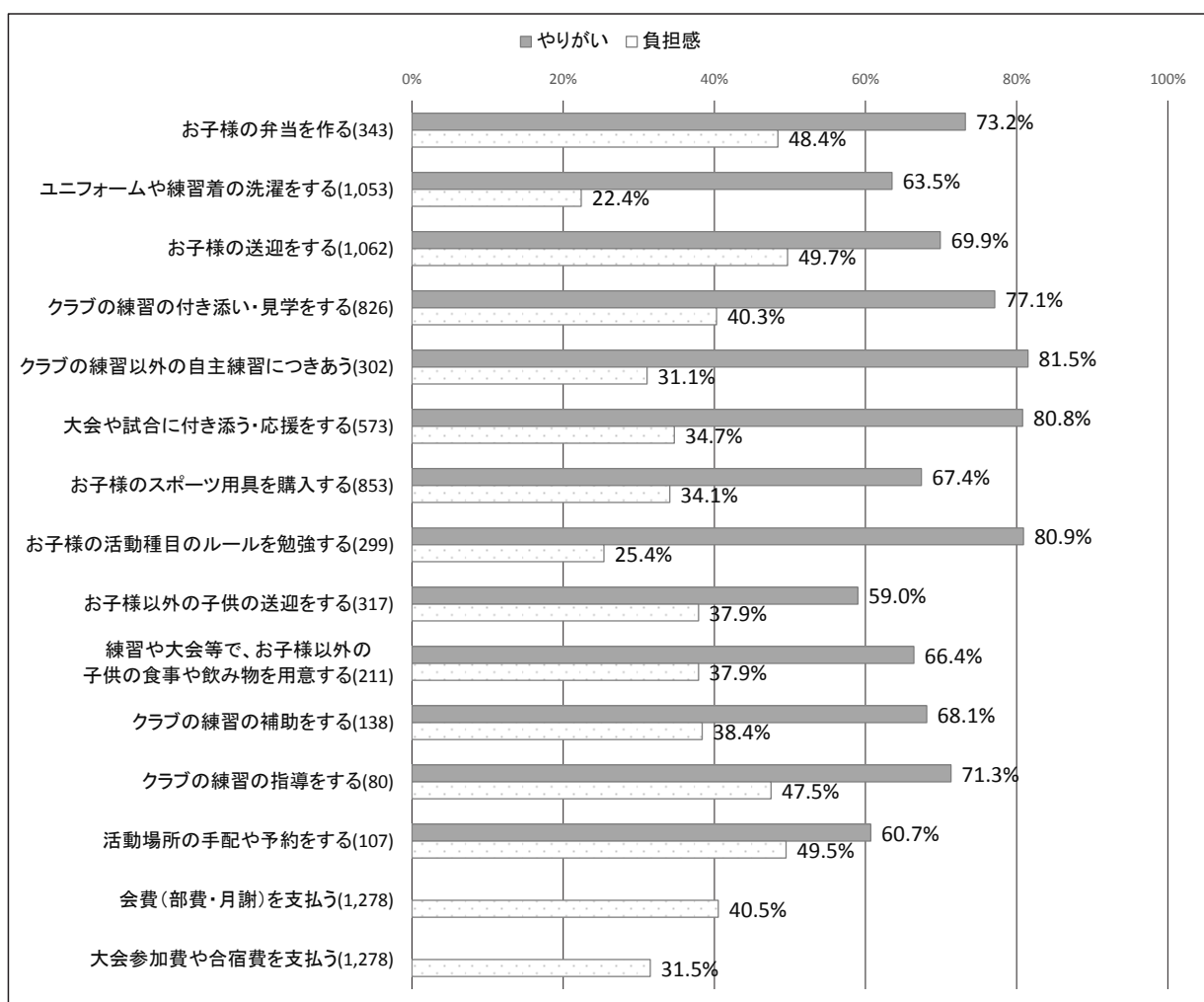
注 2)配偶者がいる人のみ回答。

#### (4) 母親のやりがい・負担感

具体的な母親の関与について、それぞれ「よくする」「時々する」と回答した人が、どれぐらいやりがいや負担を感じているのか尋ねた(図表 1-18)。図をみると、多くの母親がスポーツ活動への関与にやりがいを感じていることがわかる。特に高いのは、「クラブの練習以外の自主練習につきあう」(81.5%)、「大会や試合に付き添う・応援をする」(80.8%)、「お子様の活動種目のルールを勉強する」(80.9%)で、いずれも 8 割を超えている。最も低いのは「お子様以外の子供の送迎をする」で、59.0%であった。親の役割にとどまらず、スポーツそのものを楽しめる活動は、母親のやりがいも特に高いようである。

一方、負担感が高いのは、「お子様の送迎をする」(49.7%)、「活動場所の手配や予約をする」(49.5%)などであった。また、全員に尋ねた「会費(部費・月謝)を支払う」を「負担に感じる」のは 40.5%、「大会参加費や合宿費を支払う」では 31.5%であった。

図表 1-18 母親のやりがい・負担感(スポーツ活動をしている子)



注1) 「やりがい」は「とてもやりがいを感じている」+「まあやりがいを感じている」の%。「負担感」は「とても負担に感じている」+「やや負担に感じている」の%。

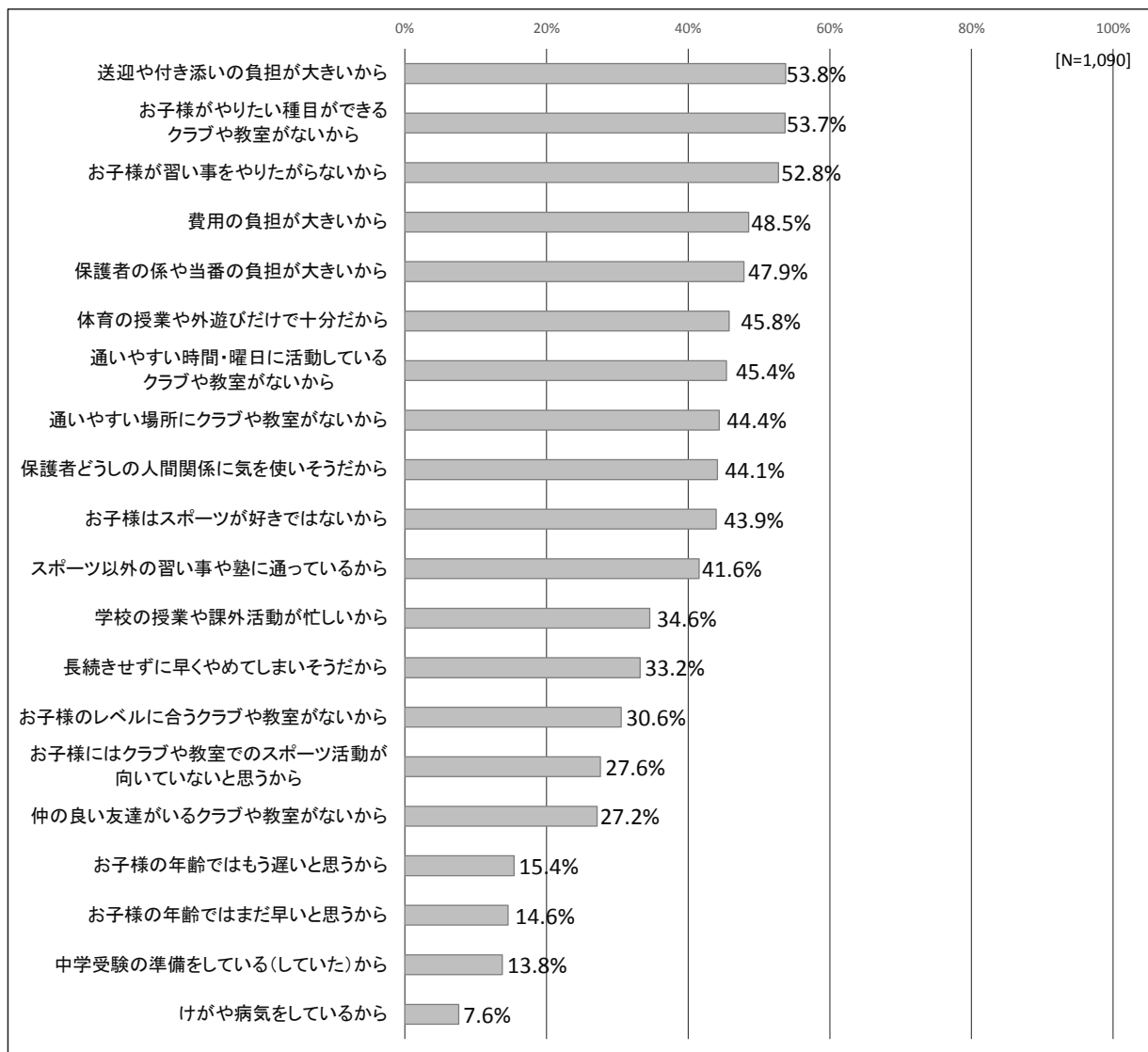
注2) 上から 13 項目に関しては、それぞれの支援を「よくする」「時々する」人を母数にしている。

## 2. 3 スポーツ活動をしていない子供の家庭

### (1) スポーツ活動をしない理由

スポーツ活動をしていない場合に、その理由を尋ねた(図表 1-21)。全体では、「送迎や付き添いの負担が大きいから」(53.8%)、「お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから」(53.7%)、「お子様が習い事をやりたがらないから」(52.8%)の3つが半数を超えていた。さらに「費用の負担が大きいから」(48.5%)、「保護者の係や当番の負担が大きいから」(47.9%)が続き、保護者の負担に関わる理由が上位にあがっていることがわかる。

図表 1-21 スポーツ活動をしない理由(スポーツ活動をしていない子)



注) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

続いて、スポーツ活動をしない理由を子供の性・学年別にみた(図表 1-22)。まず、性別にかかわらず低学年では保護者の負担、高学年では子供自身の意向やスポーツ以外の活動をしていることが理由の上位にあがっている。たとえば、1・2年生(男女)、および3年生女子ではいずれも「送迎や付き添いの負担が大きいから」が最多で、特に2・3年生の女子では7割近くに達している。しかし高学年では数値が下がり、6年生では男女ともに約4割である。それに対して、高学年では「お子様が習い事をやりたがらないから」「お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから」といった項目が上位にあがっている。「お子様はスポーツが好きではないから」も、1年生では男女ともに3割台だが、2年生以降4割台になり、5・6年生の女子では5割を超えている。また、女子の低中学年では「体育の授業や外遊びだけで十分だから」が高く、5～6割程度みられる。一方で、1年生の男子では30.9にとどまる。

年齢に関する意識を見ると、1年生は「お子様の年齢ではまだ早いと思うから」が男子で27.2%、女子で32.4%となっている。「お子様の年齢ではもう遅いと思うから」は、男子では4年生から1割を超え、6年生では25.9%である。女子では2年生以上のすべての学年で、1～2割が「あてはまる」としている。

図表 1-22 スポーツ活動をしない理由(性・学年別)

男子

	N=81	1年生
送迎や付き添いの負担が大きいか	55.6%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	53.1%	
通いやすい場所にクラブや教室がないから	51.9%	
お子様が習い事をやりたがらないから	51.9%	
費用の負担が大きいか	50.6%	
保護者どうしの人間関係に気を使いたいから	48.1%	
通いやすい場所・曜日に活動しているクラブや教室がないから	45.7%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	42.0%	
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから	39.5%	
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから	35.8%	
お子様がスポーツが好きではないから	35.8%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	30.9%	
お子様にはクラブや教室でスポーツ活動が向いていないと思うから	30.9%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	27.2%	
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから	25.9%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	23.5%	
けがや病気をしているから	7.4%	
けがや病気をしているから	7.4%	
中学受験の準備をしている(していた)から	6.2%	

女子

	N=102	1年生
送迎や付き添いの負担が大きいか	59.8%	
通いやすい場所にクラブや教室がないから	57.8%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	54.9%	
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから	54.9%	
費用の負担が大きいか	54.9%	
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから	52.0%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	50.0%	
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから	47.1%	
お子様が習い事をやりたがらないから	42.2%	
保護者どうしの人間関係に気を使いたいから	41.2%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	36.3%	
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから	34.3%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	32.4%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	32.4%	
お子様がスポーツが好きではないから	31.4%	
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから	31.4%	
お子様にはクラブや教室でスポーツ活動が向いていないと思うから	24.5%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	7.8%	
けがや病気をしているから	6.9%	
けがや病気をしているから	6.9%	
中学受験の準備をしている(していた)から	6.9%	

	N=74	2年生
送迎や付き添いの負担が大きいか	64.9%	
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから	59.5%	
お子様が習い事をやりたがらないから	58.1%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	52.7%	
費用の負担が大きいか	51.4%	
保護者どうしの人間関係に気を使いたいから	50.0%	
通いやすい場所・曜日に活動しているクラブや教室がないから	47.3%	
通いやすい場所・曜日に活動しているクラブや教室がないから	44.6%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	41.9%	
お子様がスポーツが好きではないから	41.9%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	41.9%	
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから	31.1%	
お子様にはクラブや教室でスポーツ活動が向いていないと思うから	25.7%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	24.3%	
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから	20.3%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	18.9%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	17.6%	
けがや病気をしているから	12.2%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	9.5%	
中学受験の準備をしている(していた)から	2.7%	

	N=99	2年生
送迎や付き添いの負担が大きいか	67.7%	
費用の負担が大きいか	54.5%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	54.5%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	49.5%	
お子様が習い事をやりたがらないから	48.5%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	47.5%	
通いやすい場所・曜日に活動しているクラブや教室がないから	46.5%	
通いやすい場所・曜日に活動しているクラブや教室がないから	46.5%	
お子様がスポーツが好きではないから	44.4%	
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから	43.4%	
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから	40.4%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	38.4%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	33.3%	
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから	28.3%	
お子様にはクラブや教室でスポーツ活動が向いていないと思うから	28.3%	
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから	27.3%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	21.3%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	18.2%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	10.1%	
中学受験の準備をしている(していた)から	10.1%	
けがや病気をしているから	10.1%	

	N=72	3年生
お子様が習い事をやりたがらないから		61.1%
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから		47.2%
送迎や付き添いの負担が大きいか		47.2%
保護者の係や当番の負担が大きいか		45.8%
お子様がスポーツが好きではないから		44.4%
費用の負担が大きいか		44.4%
体育の授業や外遊びだけで十分だから		44.4%
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから		40.3%
長続きせずに早くやめてしまいたいから		37.5%
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから		33.3%
お子様にはクラブや教室でスポーツ活動が向いていないと思うから		29.2%
学校の授業や課外活動が忙しいから		26.4%
お子様の年齢ではまだ早いと思うから		25.0%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		25.0%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		19.4%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		19.4%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		6.9%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		6.9%
けがや病気をしているから		5.6%
けがや病気をしているから		4.2%
中学受験の準備をしている(していた)から		4.2%

	N=102	3年生
送迎や付き添いの負担が大きいか		67.6%
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから		63.7%
費用の負担が大きいか		62.7%
保護者の係や当番の負担が大きいか		60.8%
体育の授業や外遊びだけで十分だから		57.8%
お子様が習い事をやりたがらないから		53.9%
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから		52.0%
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから		51.0%
お子様が習い事をやりたがらないから		50.0%
通いやすい場所にクラブや教室がないから		49.0%
長続きせずに早くやめてしまいたいから		45.1%
お子様がスポーツが好きではないから		42.2%
学校の授業や課外活動が忙しいから		38.2%
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから		35.3%
お子様にはクラブや教室でスポーツ活動が向いていないと思うから		29.4%
お子様の年齢ではまだ早いと思うから		28.4%
お子様の年齢ではまだ早いと思うから		16.7%
中学受験の準備をしている(していた)から		13.7%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		11.8%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		6.9%



男子

	N=71	4年生
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから	59.2%	
お子様がやりたい種目をやりたがらないから	57.7%	
送迎や付き添いの負担が大きいか	53.5%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	53.5%	
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから	52.1%	
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから	50.7%	
お子様がスポーツが好きではないから	49.3%	
通いやすい場所にクラブや教室がないから	49.3%	
費用の負担が大きいか	47.9%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	42.3%	
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから	40.8%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	38.0%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	38.0%	
お子様にはクラブや教室でスポーツ活動が向いているから	35.2%	
お子様にはクラブや教室でのスポーツ活動が向いていないと思うから	33.8%	
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから	23.9%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	19.7%	
中学受験の準備をしている(している)から	16.9%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	12.7%	
けがや病気をしているから	4.2%	

	N=75	5年生
お子様がやりたい種目をやりたがらないから	56.0%	
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから	50.7%	
送迎や付き添いの負担が大きいか	44.0%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	44.0%	
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから	42.7%	
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから	41.3%	
お子様がスポーツが好きではないから	37.3%	
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから	36.0%	
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから	36.0%	
通いやすい場所にクラブや教室がないから	34.7%	
費用の負担が大きいか	34.7%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	32.0%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	29.3%	
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから	28.0%	
費用の負担が大きいか	28.0%	
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから	26.7%	
お子様にはクラブや教室でのスポーツ活動が向いていないと思うから	26.7%	
中学受験の準備をしている(している)から	22.7%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	22.0%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	16.0%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	5.3%	
けがや病気をしているから	5.3%	

	N=85	6年生
お子様がやりたい種目をやりたがらないから		56.5%
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから		49.4%
送迎や付き添いの負担が大きいか		49.4%
保護者の係や当番の負担が大きいか		44.7%
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから		43.5%
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから		43.5%
通いやすい場所にクラブや教室がないから		41.2%
費用の負担が大きいか		40.0%
送迎や付き添いの負担が大きいか		40.0%
保護者の係や当番の負担が大きいか		37.6%
学校の授業や課外活動が忙しいから		36.5%
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから		31.8%
長続きせずに早くやめてしまいたいから		31.8%
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから		29.4%
お子様にはクラブや教室でのスポーツ活動が向いていないと思うから		28.2%
中学受験の準備をしている(している)から		25.9%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		23.5%
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから		23.5%
けがや病気をしているから		8.2%
お子様の年齢ではまだ早いと思うから		7.1%

女子

	N=92	4年生
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから	58.7%	
送迎や付き添いの負担が大きいか	57.6%	
費用の負担が大きいか	55.4%	
お子様がやりたい種目をやりたがらないから	53.3%	
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから	52.2%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	51.1%	
スポーツ以外の習い事や塾に通っているから	47.8%	
通いやすい場所にクラブや教室がないから	45.7%	
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから	45.7%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	44.6%	
お子様がスポーツが好きではないから	41.3%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	39.1%	
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから	29.3%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	28.3%	
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから	25.0%	
中学受験の準備をしている(している)から	20.7%	
お子様にはクラブや教室でのスポーツ活動が向いていないと思うから	19.6%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	14.1%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	8.7%	
けがや病気をしているから	5.4%	

	N=113	5年生
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから	54.0%	
お子様がやりたい種目をやりたがらないから	51.3%	
送迎や付き添いの負担が大きいか	50.4%	
費用の負担が大きいか	48.7%	
お子様がスポーツが好きではないから	46.0%	
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから	44.2%	
体育の授業や外遊びだけで十分だから	43.4%	
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから	41.0%	
保護者の係や当番の負担が大きいか	40.7%	
学校の授業や課外活動が忙しいから	37.2%	
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから	36.3%	
通いやすい場所にクラブや教室がないから	34.6%	
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから	27.4%	
長続きせずに早くやめてしまいたいから	26.6%	
お子様にはクラブや教室でのスポーツ活動が向いていないと思うから	25.7%	
中学受験の準備をしている(している)から	24.8%	
お子様の年齢ではもう遅いと思うから	20.4%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	18.0%	
けがや病気をしているから	8.0%	
お子様の年齢ではまだ早いと思うから	7.1%	

	N=124	6年生
お子様がやりたい種目ができるクラブや教室がないから		55.6%
お子様がやりたい種目をやりたがらないから		54.0%
送迎や付き添いの負担が大きいか		52.4%
費用の負担が大きいか		50.8%
お子様がスポーツが好きではないから		46.8%
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから		46.0%
体育の授業や外遊びだけで十分だから		43.5%
通いやすい場所にクラブや教室がないから		41.9%
保護者どうしの人間関係に気を遣いそうだから		41.9%
保護者の係や当番の負担が大きいか		41.1%
学校の授業や課外活動が忙しいから		40.3%
通いやすい時間・曜日に活動しているクラブや教室がないから		37.1%
保護者の係や当番の負担が大きいか		31.5%
お子様のレベルに合うクラブや教室がないから		30.6%
長続きせずに早くやめてしまいたいから		29.0%
仲の良い友達がいるクラブや教室がないから		29.0%
お子様の年齢ではもう遅いと思うから		22.6%
中学受験の準備をしている(している)から		16.1%
けがや病気をしているから		10.5%
お子様の年齢ではまだ早いと思うから		9.7%

注)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。各カテゴリで降順に並び替えている。



保護者の負担に関わる項目について世帯年収別に分析すると、「費用の負担が大きいから」(400万円未満 61.6% > 800万円以上 26.8%、以下同)で特に大きい差がみられた(図表 1-23)。また、「送迎や付き添いの負担が大きいから」(61.9% > 39.4%)、「保護者の係や当番の負担が大きいから」(58.5% > 33.1%)、「保護者どうしの人間関係に気を使いそうだから」(52.0% > 30.3%)でも差がみられ、保護者の負担感は家庭の経済状況や保護者の生活の事情などに影響を受けていると考えられる。

図表 1-23 スポーツ活動をしらない理由(世帯年収別)

	世帯年収						
	400万円未満 (294)	400万円～ 600万円未満 (288)	600万円～ 800万円未満 (185)	800万円以上 (142)			
費用の負担が大きいから	61.6%	>	52.4%	>>	41.1%	>>	26.8%
送迎や付き添いの負担が大きいから	61.9%		57.3%	>	51.4%	>>	39.4%
保護者の係や当番の負担が大きいから	58.5%	>>	48.3%	>	41.1%	>	33.1%
保護者どうしの人間関係に気を使いそうだから	52.0%	>	46.9%	>	37.3%	>	30.3%

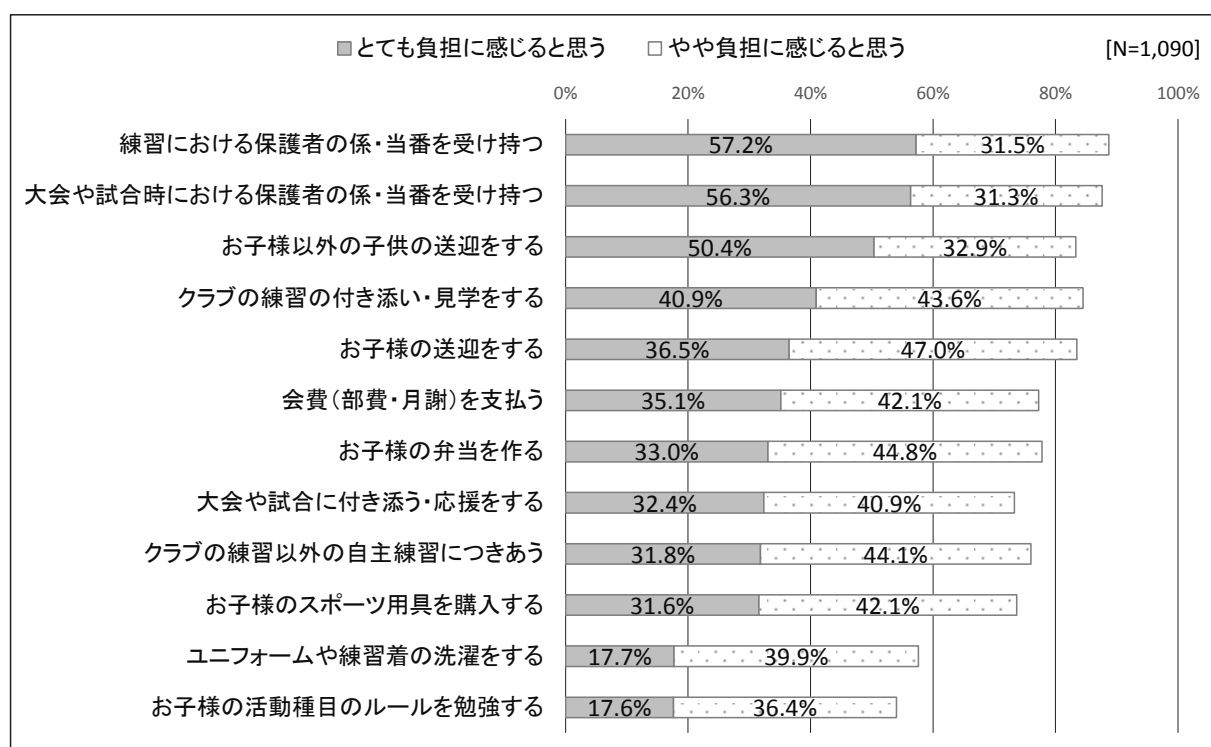
注)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

## (2) 母親の負担感

現在スポーツ活動をしていない場合に、「もしこれからお子様が団体(クラブ・教室等)に所属してスポーツ活動をするようになったら、あなたご自身はどれくらい負担を感じると思いますか」と、状況を想定した質問をした(図表 1-24)。全体的に「負担に感じると思う」という回答が多かったが、特に「練習における保護者の係・当番を受け持つ」「大会や試合時における保護者の係・当番を受け持つ」は「とても負担に感じると思う」だけで 6 割近くになった。負担感が少ないのは「ユニフォームや練習着の洗濯をする」「お子様の活動種目のルールを勉強する」で、「とても負担に感じると思う」は 1 割台であった。

図表は割愛しているが、性・学年別にみると、低学年男子では「とても負担に感じると思う」が他の性・学年よりも高い項目が多かった。

図表 1-24 母親の負担感(スポーツ活動をしていない子)



最後に、スポーツ活動をやめた理由を確認した(図表 1-25)。この質問は、小学生のうちに「以前はしていたが、今は行っていない」種目がある場合に尋ねているので、現在別のスポーツ活動を行っている子と、今は何も行っていない子の両方の母親が回答対象に含まれている。

理由として多いのは、「お子様がやめたがっていたから」(35.5%)、「目標を達成したから」(34.6%)、「スポーツ以外の習い事や塾に通うことになったから」(32.6%)である。また、学年別にみると、「通いづらい場所にあったから」(1年生 33.3% > 6年生 17.4%)は低学年のほうが多い。逆に高学年ほど多くなる理由としては、「目標を達成したから」(1年生 14.5% < 6年生 47.5%)、「スポーツ以外の習い事や塾に通うことになったから」(1年生 23.1% < 6年生 39.7%)などがある。

図表 1-25 スポーツ活動をやめた理由(全体、学年別)

	全体 (960)	1年生 (117)	2年生 (119)	3年生 (136)	4年生 (177)	5年生 (192)	6年生 (219)
活動できる場がなくなったから (ご自宅の転居やクラブの廃止など)	23.5%	25.6%	30.3%	< 24.3%	27.1%	> 19.3%	19.2%
通いづらい場所にあったから	26.5%	33.3%	< 38.7%	» 26.5%	31.1%	» 20.8%	17.4%
お子様のレベルに合わなかったから	22.3%	20.5%	24.4%	24.3%	25.4%	> 18.8%	21.5%
指導者や指導方法が合わなかったから	18.2%	18.8%	21.8%	16.9%	< 23.2%	> 14.6%	16.0%
目標を達成したから	34.6%	14.5%	« 25.2%	27.2%	< 36.2%	< 41.7%	< 47.5%
お子様が他のスポーツに興味をもったから	28.1%	23.9%	26.1%	30.9%	29.4%	30.2%	26.9%
スポーツ以外の習い事や塾に通うことになったから	32.6%	23.1%	22.7%	< 32.4%	34.5%	34.9%	39.7%
学校の授業や課外活動が忙しくなったから	26.5%	25.6%	24.4%	> 18.4%	< 27.1%	28.6%	30.6%
中学受験の準備を始めたから	11.8%	1.7%	< 8.4%	5.9%	< 12.4%	< 17.7%	16.9%
お子様がやめたがっていたから	35.5%	27.4%	« 39.5%	36.0%	38.4%	> 33.3%	37.0%
けがや病気で続けられなくなったから	6.6%	4.3%	< 10.1%	> 3.7%	< 9.6%	> 4.2%	7.3%
費用の負担が大きかったから	18.0%	17.9%	21.0%	> 14.7%	< 22.0%	> 15.1%	17.8%
送迎や付き添いの負担が大きかったから	26.1%	26.5%	< 32.8%	> 27.2%	27.7%	26.6%	> 20.1%
保護者の係や当番の負担が大きかったから	10.5%	10.3%	14.3%	> 6.6%	10.2%	12.5%	9.6%

注)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

以上、スポーツ活動をしていない子供の家庭の様子を確認した。子供がスポーツ活動をしていない背景に、保護者の負担感がある。特に低学年では、子供の意思や志向が理由となる家庭が高学年に比べて少ないだけに、環境の整備や保護者負担の軽減が進むことで、スポーツ活動に参加させやすくなる家庭があるのではないだろうか。

## 2. 4 子供のスポーツ環境に対する意識

### (1) 満足度

子供のスポーツ環境や体力・運動能力に対する満足度を尋ねた(図表 1-26)。まず指摘しておきたいのが、現在スポーツ活動をしていない場合の「わからない」の比率の高さである。特に「お住まいの地域で開かれる運動会・スポーツ体験教室など」(60.2%)、「お住まいの地域のスポーツ施設」(49.4%)で「わからない」が多かった。もともとスポーツへの関心が低い保護者はそうした情報に接していないのかもしれないが、公共施設や体験会などの情報は本来、スポーツ活動に積極的に取り組みづらい親子にこそリーチする意義があると考えられる。行政や主催者もWebサイトや広報誌、学校を通じた配布等で告知を積極的に行っているものの、それでも受け手である母親がこのような状況である点は、今後も検討が必要な課題であるといえよう。

一方で、スポーツ活動をしている場合は、「わからない」の比率も低い。「とても満足している」+「まあ満足している」の数値をみると、「お子様の通っているスポーツ教室・クラブ等」(83.0%)が最も高く、他は「お住まいの地域の遊び場」(59.5%)、「お子様の体力・運動能力」(55.4%)、「お住まいの地域のスポーツ施設」(53.3%)、「お住まいの地域で開かれる運動会・スポーツ体験教室など」(46.5%)の順であった。

図表 1-26 満足度(全体、スポーツ活動の有無別)

		全体 (2,368)	スポーツ活動	
			有(1,278)	無(1,090)
お子様の通っているスポーツ教室・ クラブ等	とても満足している	/	11.7%	/
	まあ満足している		71.3%	
	あまり満足していない		12.2%	
	全く満足していない		1.8%	
	わからない		3.0%	
お住まいの地域の遊び場 (公園、広場など)	とても満足している	4.6%	6.0%	2.9%
	まあ満足している	42.1%	53.5%	28.6%
	あまり満足していない	24.6%	29.0%	19.4%
	全く満足していない	8.1%	7.7%	8.4%
	わからない	20.7%	3.8%	40.6%
お住まいの地域のスポーツ施設 (プール、体育館など)	とても満足している	3.6%	5.1%	1.9%
	まあ満足している	35.7%	48.2%	21.0%
	あまり満足していない	26.1%	31.6%	19.7%
	全く満足していない	8.2%	8.5%	7.9%
	わからない	26.3%	6.6%	49.4%
お住まいの地域で開かれる運動会・ スポーツ体験教室など	とても満足している	2.7%	4.1%	0.9%
	まあ満足している	29.7%	42.4%	14.8%
	あまり満足していない	25.1%	32.3%	16.7%
	全く満足していない	7.7%	8.0%	7.4%
	わからない	34.8%	13.1%	60.2%
お子様の体力・運動能力	とても満足している	4.4%	6.3%	2.3%
	まあ満足している	39.0%	49.1%	27.2%
	あまり満足していない	32.9%	35.1%	30.4%
	全く満足していない	7.9%	7.1%	8.7%
	わからない	15.8%	2.4%	31.4%

## (2) スポーツ環境に対する意見

「次のようなAとBの2つの意見について、あなたの考えに近いのはどちらですか」という形で、スポーツ環境に対する意見を尋ねた(図表 1-27)。順番にみていくと、小学生の子供の競技に対する取り組み方としては、「多様な競技に取り組むことが望ましい」が多数派で、72.2%('Bに近い'+「どちらかといえばBに近い」、以下同)であった。子供のスポーツ指導においては、「技術の習得を重視すべきだ」(15.9%)よりも「楽しさを味わうことを重視すべきだ」(84.1%)が多数派であった。

体罰については、「いかなる理由でも、指導者による体罰はやめたほうがよい」が73.6%、「やむを得ない場合であれば、指導者による体罰があってもよい」は26.4%であった。保護者の間でも4分の1程度、体罰容認派がいる点は注目されるが、保護者によって「やむを得ない場合」や「体罰」の想定する内容が異なることが予想され、質的な調査などで考察を補完する必要があるだろう。

最後に、「子供のスポーツ環境はなるべく国や自治体が整備するのが望ましい」は52.5%、「子供のスポーツ環境は民間が積極的に参入して整備するのが望ましい」は47.4%で、差は小さかった。

図表 1-27 スポーツ環境に対する意見

		全体 (2,368)
A: 子供が小学生のうちから、1つの競技に専念することが望ましい	Aに近い	4.5%
	どちらかといえばAに近い	23.4%
B: 子供が小学生のうちから、多様な競技に取り組むことが望ましい	どちらかといえばBに近い	56.0%
	Bに近い	16.2%
A: 子供のスポーツ指導においては、楽しさを味わうことを重視すべきだ	Aに近い	24.7%
	どちらかといえばAに近い	59.4%
B: 子供のスポーツ指導においては、技術の習得を重視すべきだ	どちらかといえばBに近い	13.7%
	Bに近い	2.2%
A: やむを得ない場合であれば、指導者による体罰があってもよい	Aに近い	2.1%
	どちらかといえばAに近い	24.3%
B: いかなる理由でも、指導者による体罰はやめたほうがよい	どちらかといえばBに近い	41.1%
	Bに近い	32.5%
A: 子供のスポーツ環境はなるべく国や自治体が整備するのが望ましい	Aに近い	7.1%
	どちらかといえばAに近い	45.4%
B: 子供のスポーツ環境は民間が積極的に参入して整備するのが望ましい	どちらかといえばBに近い	41.8%
	Bに近い	5.6%

以上、子供のスポーツ環境に対する意識の調査結果を確認した。組織でスポーツをするのが難しくても、地域の遊び場や施設を利用して、個人や家族でスポーツを楽しむことはできる。しかし、スポーツ活動をしていない子供の場合、母親のそうした場に対する認知・関心が低い。保護者の余裕や関心がない家庭であっても、子供が地域でスポーツを楽しむことができる条件を明らかにすることが、今後の研究上の課題といえるだろう。

### 3. 結果のまとめ

---

以上、調査結果を主な調査項目ごとに整理した。最後に、①学年別 ②世帯年収別に特徴的な調査結果をまとめ、課題を指摘したい。

#### ① 学年別

現在子供が行っているスポーツ活動の具体的な種目(図表 1-2)、種目数(図表 1-4)、所属する団体の種類(図表 1-8)をもとに小学生のスポーツ活動を概観すると、1・2年生では民間のスイミング・体操教室などに通うケースが多く、3・4年生になるとその他の種目を地域クラブで行うケースも増えてくる。そして、5・6年生になると、一定数の子供がスポーツ活動から離れる様子が浮かび上がる。母親の関与については、「お子様の送迎をする」「クラブの練習の付き添い・見学をする」などは低学年ほど多く、「お子様以外の子供の送迎」「活動場所の手配や予約」などは6年生で特に多かった(図表 1-16)。

一方で、スポーツ活動に参加しない理由は、低学年では保護者の負担、高学年では子供自身の意向やスポーツ以外の活動をしていることが上位にあがっていた(図表 1-22)。また図表は割愛しているが、「送迎や付き添いの負担」は未就学児の有無別にも差がみられた。家庭によっては、低学年の第1子と未就学児のきょうだいを連れて行動するケースもあり、そうした点で負担感が強くなる可能性もある。

#### ②世帯年収別

図表 1-5 でスポーツ活動を「行っていない」比率をみると、世帯年収の低い家庭のほうが高かった。複数の先行研究で指摘されてきた点であるが、改めて子供のスポーツ活動における家庭環境の影響の大きさは看過できない課題として指摘できる。

また、図表 1-23 でスポーツ活動をしていない理由をみると、「費用の負担が大きいから」「送迎や付き添いの負担が大きいから」で特に世帯年収による大きい差がみられた。また、「係や当番」「保護者どうしの人間関係」でも差がみられていた。図表は割愛しているが、「送迎や付き添いの負担が大きいから」「係や当番の負担が大きいから」に関しては、配偶者の有無別の分析でも差がみられている。

ここから指摘したいのは、「保護者が関与を負担に感じる」というのは、保護者のわがままや感情の問題としてのみで解決できることではなく、家庭の経済状況や保護者の生活状況に左右される問題であり、社会課題として捉えられるということである。負担感の強い親のもとでも小学生が希望するスポーツができるためには、費用の負担だけでなく、当たり前のように思われてきた保護者によるスポーツ活動の支援体制についても検討する必要があるだろう。

